

札幌トンネル掘削土受入候補地(手稲山口地区)説明会における主な質疑概要

日 時： 令和3年3月28日(日)、29日(月)

場 所： 山口処理場管理棟会議室

説明者：

鉄道・運輸機構：依田局長、魚津次長、高橋工事第六課長、

齊藤工事第七課長

札幌市：秋元市長、生野新幹線推進室長、林新幹線推進担当課長(28日)

吉岡副市長、生野新幹線推進室長、林新幹線推進担当課長(29日)

○説明会の位置付け

本説明会は、新幹線トンネル工事で発生する対策土の受入候補地（山口処理場）の事前調査結果、工事で発生する土の性状や対策土の対策方法、盛土計画、工事の内容、今後の進め方等について住民の皆様にお知らせするために開催したものです。

1 受入候補地の選定に関すること

【質問1－1】

・大きな地震が来ると想定されている中、津波はないと言い切れるのか。札幌市内にも周囲に住民のいない土地があるのではないかと。そのような土地を受入地とすればよいのではないかと。

・山口処理場から出ている汚泥を処理している土地が新川沿いにあるはず。周囲に家もないことから、そちらの方に搬入すればよいのではないかと。

・ヒ素は市内に分布していることは理解するが、濃度が薄いものでも1箇所を固めると、凝縮されて出たとしたら大きな被害になりかねない危険なものであり、なぜ、町の中を通過して、ここへ持ってくるのか。

《回答1－1》

（札幌市）受入地候補地について検討し、まとまった土地が必要であり、手稲区金山地区、厚別区山本地区、手稲区山口地区を選定しております。対策土を運搬することにより、そこに住まわれている方、農業されている方など、地域への被害は避けなければなりません。ヒ素や重金属が含まれている土と聞くと、不安を抱かれる方も多いかと思いますが、河川や水道水にも微量に含まれています。山口地区において、鉄道・運輸機構から今回示された対策方法は、地震や大雨などの災害も考慮されており、そのような状況でも対応できると考えております。

【質問1－2】

金山地区・山本地区が進んでいない中で、山口地区の事前調査が始まったことから、なし崩し的に山口地区ありきで進んでいるように感じる。

《回答1－2》

（機構）山口地区に関しては、調査して具体的な対策を示してほしいとの意見もあり、どのような対策が適切か検討するために、事前調査を開始しています。調査結果を基に検討をすすめ、検討の結果、安全が確保できることから、この度、説明させていただいております。また、山口地区だけでは、札幌市内から発生する対策土全てを搬入できないため、引き続き、受入地確保に向けて努めており、山口ありきで進んでいるというわけではありません。

【質問1－3】

説明会前に受入地として決定したかのような報道がされていることについて不信感をもっている。今日説明会をしたからと言って決定にはならない。受入の可否については何をもって決定するのか。

《回答1－3》

（機構）これまでの取材において機構から決定とは言っておらず、説明会を通じて決めていくとお伝えしておりましたが、山口地区決定という報道がなされたことで、不快な思いをさせて申し訳ありません。機構としては説明会、オープンハウスでご意見をいただき、札幌市と相談して決めてまいります。

2 重金属や対策工に関すること

【質問2－1】

新函館北斗・札幌間のルートが決まったのはいつか。ルートが決まった際には、トンネル発生土に重金属等が含まれているということはわからなかったのか。

《回答2－1》

（機構）北海道新幹線全体のルート公表したのは平成8年であり、その時点で重金属を含む土が出ることは想定していました。その後、平成24年に認可をいただき、より詳細な調査を進めたことにより、現在の範囲を把握してきたところです。なお、土壌汚染対策法は平成22年に改正され、自然由来の重金属等を含む土も対象になりましたが、トンネルから出る発生土は適用外とされており、同時期に国土交通省が自然由来の重金属等の対応に係るマニュアルを作成されたため、機構はこれに従い対応してきているところです。

【質問2－2】

対策土という名前がイメージを悪化させている。普通の土ですと言ってもくれれば安心できるのではないかと。

《回答2－2》

（機構）機構としては、トンネルで発生した土に対して技術基準により対策を行うという意味で対策土と呼んでおります。

3 受入候補地の工事中及び完成後の管理に関すること

【質問3－1】

・1日に何台位トラックが通行するのか。特に夏期においては、ほこりの飛散により窓も開けられなくなるのではないかと。

・風の強い日などには、窓を開けたり畑にも出られなくなる。

《回答3－1》

（機構）国道337号から3ヵ所の出入りを計画しており、ピーク時の最大ダンプ台数を1日当たり700台想定しています。工事開始から完了まで毎日700台通るというわけではなく、工事の進捗により変化していきます。運搬中は荷台にシートをかけ、受入地の出入りはタイヤ洗浄装置を付けて、公道に泥を運び出さない対策を徹底します。

粉じんの予測シミュレーション結果では、風速が弱い場合、濃度が最も高くなる敷地境界で0.076mg/m³です。0.1mg/m³で風景がぼんやりとかすむ、0.2mg/m³で洗濯物などに砂の付着が目立ち始めるという値に比べると敷地境界でそれらを下回っており、周辺には大きな影響を与えないと考えております。なお、シミュレーション上は粉じんの対策を行わない場合であり、工事中の散水などの対策により、もう少し抑えられると考えております。

【質問3－2】

ごみ処理場の盛土によりすでに風の流れが変わっているのに、対策土も高い山になると風が直撃し、もっと濃い粉じんになると思う。

《回答3－2》

（機構）工事中はルールを決めて、飛散がひどいほどの強風の場合は、搬入を中断することもあります。皆さんと相談をしながら、進めていきたいと思っております。

【質問3－3】

・これだけ説明して安全・安心だと言うが、そのぶんヒ素は危険なものということを考えなければいけない。議論する土台を作って、みんなで取り組まなければならない。構築したものが劣化することは、はっきりしている。札

幌市、機構が責任を持つとっているが、あなた方はいつかいなくなる。だれが責任を持つのか。協議会を作って、決めたことはしっかり、何十年、何百年もそれが生きるようなことも一つの方法である。

・地域には若く営農されている方もおり、地域協議会において、地域が活性化される地域振興策を議論されるのは得策である。

・地域協議会では農業だけでなく、多目的な利用を考えてほしい。

《回答3－3》

（札幌市）札幌市として工事後もモニタリングを行い、情報共有していく場として協議会でお話しさせていただきます。地域協議会では、跡地の利用や地域の振興、また、風評被害が生じないようにしていきます。先々の土地利用についても、協議会を作らせて頂ければ継続して続けられると考えております。

【質問3－4】

・十分な対策を講じて盛土することとなっているが、農作物の近くに搬入することは、風評被害をまねき、特産品が売れなくなるのではないかと心配されるのは当然のことと思う。被害が農作物に及んだ場合は補償の対象になると思われ、誠意をもって対応してほしい。

・農家をやっており風評被害が一番心配だ。農作物の直売所に客がこなくなるのではないかと心配になる。

《回答3－4》

（札幌市）対策土中のヒ素に関してはリスク評価を行い、急性影響や慢性影響のリスクは十分に小さいということをオープンハウスやさまざまな機会で紹介してきています。ヒ素は候補地周辺の井戸でも検出されていますが、すでにヒ素があるから何もしなくてもいいということではなく、しっかりとした対策を行い、情報を公開、共有し不安を払しょくすることが大事だと考えます。

（機構）風評被害については、心配が心配を呼ぶという、そういう連鎖的なところもあると思います。きっちり対策を行い、対策後もモニタリング数値の情報を常に公表していく事、そういった科学的事実を公表する事が、風評被害への対策と考えています。

【質問3－5】

工事完了後、札幌市に移管して半永久的に管理をしてもらいたい。

《回答3－5》

(札幌市)札幌市が将来にわたりしっかりとモニタリングを行い、管理していきます。

4 その他のご質問・ご意見

【質問4－1】

・近隣の学校や病院、星置や手稲区の他の地区の住民への説明は必要と考えていないのか。

・運搬ルートとなる小樽市銭函地区においても説明会を開催すべきではないか。

《回答4－1》

（機構）今回は候補地が位置する地区に居住し、生活されている方に説明しております。他地区の方に対しては、本日の説明と同様の内容について、どなたでもご来場いただけるオープンハウスを開催し広く皆様に説明させていただきます。

【質問4－2】

ごみ処理場で過去に火災が起きたが、札幌市からの謝罪はなかった。火災によりシートが破損して、我が家の敷地の方に汚染された地下水が流出してきているのではないか。

《回答4－2》

（札幌市）ゴミの自然発火の話をされているかと思います。水質等についてはごみ処理場の周辺でモニタリングを実施していますので、水質等が変わってきているのではないかという事であれば、個別に確認及び説明させて頂ければと思います。

【質問4－3】

・過去に札幌市より、緩衝地帯にスポーツ施設を作ると提案があったが、一向に実施されていない。

・山口斎場の周りにも公園を作るという話だったが、いつ公園を作るのか。

《回答4－3》

（札幌市）例えば、第1処理場はパークゴルフ場になっていますが、第3山口処理場もごみ処理場のブロックが埋め立て完了した後の構想として、スポーツ施設を作っていくという事をお示ししていました。当時はスポーツ施設を考えていましたが、現在、どういった施設がいいのか、協議会の中で地域の声を頂きながら、しっかり取り組んでまいります。

【質問4－4】

今回の説明内容は市議会で承認されたのか。

《回答4－4》

（札幌市）市議会については、3月26日に対策内容について、しっかり議論をさせて頂いております。

【質問4－5】

・新函館北斗・札幌間の約80%がトンネルとなって景色を楽しむこともできない。新幹線を造る意味はあるのか。

・新幹線は地域の向上につながる。

《回答4－5》

（機構）新幹線は都市間を高速で結ぶというのが重要な目的です。また、トンネルが多いのは事実ですが、新函館北斗、新八雲、長万部、倶知安、新小樽の前後や札幌駅は利便性を考えて、地上に出るようにしています。

（札幌市）なるべく短い時間で地域を結ぶことや、雪に強い、冬でも安心、速達性、定時性を維持するためにトンネル区間が多くなったのかと思っています。また、札幌市の経済の活性化、少子高齢化、都市間競争、地域間競争が激しくなる中で必要な事業と考えております。

【質問4－6】

北斗市において200倍くらいのヒ素が出たと聞いている。掘ってみないとわからないこともあるということ。ほぼ無害という土にしてみってきてほしい。

《回答4－6》

（機構）トンネル掘削土の重金属の量は施工前調査で把握できる範囲で想定しますが、これには限界があります。北斗の事例でも施工前調査により想定して着手しておりますが、トンネル掘削中にも調査を行い、精度を高めた判定をしています。

（札幌市）自然由来のトンネル、山の中から出てくる土とはいえ、基準値を超えるものが含まれており、そのような土に対して懸念を持つことは理解しております。しっかりとした対策、このような工法であれば対応できると札幌市としても考えております。地域の協議会で情報共有させて頂いて、そういった懸念にもしっかりと応えられるように努力してまいります。